

## 第50回記念講演

# 循環器診療における心臓核医学検査の温故知新： 診断から予後を見据えて

函館五稜郭病院 循環器内科

中田 智明

1980年代心臓病学基礎研究の1つの大きな流れは、冠循環生理学、虚血再灌流傷害そして、それに対する心筋保護・虚血耐性であった。これらを大学院での研究テーマとしつつ、同時並行的に心臓核医学の臨床と臨床研究を始めた。SPECT装置と解析装置(ワークステーションと専用ソフトウェア)の導入がそのきっかけとなった。心電図同期RI左室造影法による左室収縮・拡張機能の定量的評価、心電図同期心プールSPECT+位相解析法応用による三次元的左室局所機能評価に始まり、待機的PCI後の冬眠心筋や急性心筋梗塞再灌流療法後の気絶心筋の核医学的評価、心電図同期心筋SPECT解析ソフトウェア*P-FAST*の開発も行った。また、アデノシン負荷法、<sup>111</sup>In-抗ミオシン抗体Fabイメージング、<sup>123</sup>I-BMIPPや<sup>123</sup>I-6MP心筋脂肪酸代謝イメージングの国内第III相臨床試験にも参加できた。こうした診断学的研究からリスク層別化・予後評価の多施設共同研究へと発展していった。札幌医科大学と関連施設との<sup>123</sup>I-MIBG心不全予後予測の前向き研究(N=414)に始まり、大阪国立循環器センター(西村恒彦先生)主導の<sup>123</sup>I-BMIPP肥大型心筋症予後解析研究(N=65)、北海道心臓核医学研究会(小生と玉木長良先生)主導の急性心筋梗塞PCI治療後の<sup>123</sup>I-BMIPP予後追跡調査研究(N=101)、旭川医科大学(菊池健次郎先生)主導の<sup>123</sup>I-BMIPP維持血液透析患者リスク層別化のB-SAFE研究(677症例)、安定型冠動脈疾患における心電図同期心筋血流SPECT予後評価J-ACCESS研究(N=4031、京都府立医科大学西村恒彦先生主導)へと続いた。さらに、国内6施設・米欧の先生方と歩調を合わせて開始した心不全<sup>123</sup>I-MIBG統合データベースによる生命予後解析J-META研究(N=1322、平均77ヶ月追跡)や2023年<sup>18</sup>F-FDG PETイメージング心サルコイドーシス診断と予後に関するJ-CASP研究(N=231)も主導できた。このように、全国の仲間と協力して本邦EBMを海外に発信でき、ガイドライン作りも参加できたことは幸いであった。“正しい診断と治療を経て予後改善”に貢献できる臨床研究の重要性を改めて認識することができた。

### 略歴

1983年	札幌医科大学医学部卒業	2004年	北海道立江差病院副院長 兼 札幌医科大学医学部講師
1987年	同 大学院医学研究科 博士課程修了・医学部助手 (内科学第二講座)	2008年	北海道立江差病院院長 兼 札幌医科大学医学部准教授
1988年	英国ロンドン聖トマス病院附属レーン研究所心臓血管門	2013年	社会福祉法人函館厚生院函館五稜郭病院副院長
1996年	カナダ・カルガリ大学・アルバータ大学医学部循環器内科国際医学交流派遣	2018年	同 病院院長・函館厚生院理事
1997年	札幌医科大学医学部 講師(内科学第二講座)		現在に至る
1999年	日米医学医療交流財団、NYアルバータ・アインシュタイン医科大学研究派遣		

### ■所属学会・資格：

日本内科学会総合内科専門医・指導医・日本内科学会評議員(教育病院選出)、日本循環器学会循環器専門医・FJCS・北海道地方会評議員、日本心臓病学会FJCC・評議員、日本核医学会核医学専門医・PET核医学認定・評議員、日本心臓核医学会JSNC理事・名誉会員・2019年JSNC学術集会大会長、日本高血圧学会高血圧専門医・指導医・特別正会員FJSH・生涯教育委員会地域世話人、日本医師会認定産業医・函館市医師会理事・北海道病院協会常務理事・全日本病院協会北海道支部幹事